

かたらい

発行 社会福祉法人 とちぎ健康福祉協会

～健康経営 みんなの力で あふれる笑顔～

第94号

令和元年7月1日

〒320-8503 栃木県宇都宮市駒生町3337-1

TEL (028) 622-2846

FAX (028) 621-1422

【URL】<http://www.kenkoufukushi.com>

【E-mail】kenkoufukushi@arion.ocn.ne.jp



「大きなこいのぼりくぐり」～宝木保育園～

就任にあたつて



理事長

富田哲夫

本年四月、前任の和田裕二理事長の後任として、社会福祉法人とちぎ健康福祉協会の理事長に就任いたしました。折しも、令和元年の就任となりましたので、新しい時代にふさわしい協会を目指して、清新の気をもって務めて参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いします。

当協会は、一つの社会福祉法人でありながら、児童・母子福祉事業や障害福祉事業に加えて、県民の健康づくり事業や高齢者の生きがいづくり事業などに取り組んでおり、一昨年「栃木県厚生事業団から五十周年を迎えて」の記念講演で、佐野日大短大教授（当時）の山田昇先生がおっしゃった、「福祉の総合商社」という言葉通りと実感している次第です。

人間は、生きていれば、必ず、悩みや苦しみから逃れることはできず、仏教で言う「生・老・病・死」の四苦は、万人に等しく覆いかぶさってくるものです。こうした個人的な悩みや苦しみのうち、社会的に取り組むべき課題をとらえて、少しでも解決し、あるいは軽減し、誰もが生き生きと暮らしていける社会を実現するのが社会福祉です。当協会は、まさしくこれらの問題に幅広く取り組んでいる社会福祉法人と言えましょう。

職員の皆さんには、そうした仕事に携わることができる喜びを感じながら、日々の業務に取り組んでいただけたらうれしく思います。必ずや皆さん的人生も豊かなものになっていくと確信します。

「利用者一人ひとりが、その人らしく、地域社会において健やかに育ち、心豊かに暮らすことを支援」して、ともに歩んで参りましょう。

「健康経営 みんなの力で あふれる笑顔」を目指し



わかくさの入所者が楽しみにしている行事の一つ「母と子のつどい」を五月十一日に実施しました。今回の行き先は夢の国「東京ディズニーシー」です。遠足に備え、下調べをする母親、数日前から楽しみでワクワクしている子ども達。みんなの思いが一つになり、当日は晴天!園内も比較的空いており、アトラクションを何個も体験できました。初めて「夢の国」へ足を踏み入れた子ども何人かいて、最初は固まっていたものの、すぐに魔法にかかり、自然と笑顔になっていました。母親におもちゃやボップコーンを買ってもらい満悦の様子でした。

わかくさに入所しているお母さん方は、ひとり親として生活を支えるため日々必死に頑張っています。なかなか子どもとゆっくり遊ぶ時間が取れませんが、この日だけは親子の時間を楽しむ、お母さん方も少女のような顔をしていました。

今回の行事に参加できなかつた世帯のために、夢の国からお友達を連れてきました。わかくさの玄関先におりましたが、みんなの人気者です!

わかくさでは年二回「母と子のつどい」を実施し、日常生活から離れ行楽地で親子揃ってリフレッシュできる機会を提供しています。次回は秋頃を予定しており、入所者からのリクエストを行き先を検討していきます。



わかくさの入所者が楽しみにしている行事の一つ「母と子のつどい」を五月十一日に実施しました。今回の行き先は夢の国「東京ディズニーシー」です。遠足に備え、下調べをする母親、数日前から楽しみでワクワクしている子ども達。みんなの思いが一つになり、当日は晴天!園内も比較的空いており、アトラクションを何個も体験できました。初めて「夢の国」へ足を踏み入れた子ども何人かいて、最初は固まっていたものの、すぐに魔法にかかり、自然と笑顔になっていました。母親におもちゃやボップコーンを買ってもらい満悦の様子でした。

わかくさに入所しているお母さん方は、ひとり親として生活を支えるため日々必死に頑張っています。なかなか子どもとゆっくり遊ぶ時間が取れませんが、この日だけは親子の時間を楽しむ、お母さん方も少女のような顔をしていました。

今回の行事に参加できなかつた世帯のために、夢の国からお友達を連れてきました。わかくさの玄関先におりましたが、みんなの人気者です!

わかくさでは年二回「母と子のつどい」を実施し、日常生活から離れ行楽地で親子揃ってリフレッシュできる機会を提供しています。次回は秋頃を予定しており、入所者からのリクエストを行き先を検討していきます。

行事あれこれ

事業部

ねんりんピックとちぎ2019

わかくさ

遠足

わかくさの入所者が楽しみにしている行事の一つ「母と子のつどい」を五月十一日に実施しました。今回の行き先は夢の国「東京ディズニーシー」です。遠足に備え、下調べをする母親、数日前から楽しみでワクワクしている子ども達。みんなの思いが一つになり、当日は晴天!園内も比較的空いており、アトラクションを何個も体験できました。初めて「夢の国」へ足を踏み入れた子ども何人かいて、最初は固まっていたものの、すぐに魔法にかかり、自然と笑顔になっていました。母親におもちゃやボップコーンを買ってもらい満悦の様子でした。

今年の「ねんりんピックとちぎ2019スポーツ・文化交流大会」は十七回目を迎え、五月五日(日)から約一ヶ月間、宇都宮市を含め四市一町において十九種目が開催され、選手・役員総勢二、八〇八名が参加しました。今年の十一月に和歌山県で開催される第三十二回全国健康福祉祭和歌山大会への出場を目指し、さわやかな五月晴れの中、どの競技も白熱した試合が繰り広げられました。

また、シルバー作品展には日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の六部門に合計二三二点の応募があり、とちぎ健康の森にて六月五日(水)から五日間にわたり展示されました。出品者の思い思いの作品が並び、「毎年、入賞を目指しているのでまた来年も頑張ります」と話す出品者もいました。

スポーツ・文化交流大会で選抜された十九種目二五五名の選手と、シルバー作品展の上位入賞作品十二点は、栃木県代表として十一月九日(土)から四日間、和歌山の地で開催する全国大会に参加します。参加者の皆様が日頃の鍛錬の成果を発揮できる機会を提供しています。次回は秋頃を予定しており、入所者と行き先を検討していきます。



弓道交流大会

事業部

とちぎ健康の森フェス2019

六月八日(土)、梅雨入り間もない時期ではありましたが、時折晴れ間も見えるなど天候にも恵まれ、とちぎ健康の森では「みんなで健康づくり・生きがいづくり!」をメインテーマとした「とちぎ健康の森フェス2019」を開催しました。

ミニステージでは、健康生きがいづくりアドバイザーの青木羊耳氏による講演会をはじめ、マロニエウインドオーケストラや健康の森利用団体、シルバー大学生校生、ゆるキャラによるパフォーマンスが行われました。他にも昔遊びやツリークライミングなどの各種イベントが行われ、子どもから年輩者まで、賑やかな声が響き渡っていました。

また、同時開催の「ねんりんピックとちぎ2019」の囲碁・将棋大会では熱戦が繰り広げられ、シルバー作品展では、熱心に鑑賞される方々で賑わいました。ソフトテニスや卓球などの競技体験会も実施し、多くの皆様に参加いただきました。

当日は、シリバーア大学校各校の有志による、運営ボランティアの活躍もあり、笑顔溢れる素晴らしいイベントとなりました。



令和元年度とちぎ健康福祉協会資金収支予算

自 平成31年4月1日
至 令和2年3月31日

(単位 千円)

勘定科目		本年度予算額	前年度予算額	比較増減(△)
事業活動による収入	170児童福祉事業収入	145,171	137,193	7,978
	190保育事業収入	205,275	199,572	5,703
	220就労支援事業収入	32,232	31,367	865
	250障害福祉サービス等事業収入	1,628,426	1,600,363	28,063
	320指定管理者事業収入	564,328	734,384	△170,056
	350高齢者生きがいづくり支援事業収入	98,626	102,917	△4,291
	380法人本部収入	53,766	80,182	△26,416
	383借入金利息補助金収入	14	16	△2
	385経常経費寄附金収入	9	10	△1
	389受取利息配当金収入	1,432	1,192	240
	399その他の収入	53,609	45,203	8,406
	事業活動収入計(1)	2,782,888	2,932,399	△149,511
	500人件費支出	1,738,131	1,745,046	△6,915
	550事業費支出	442,298	505,868	△63,570
事業活動による支岡	590事務費支出	474,661	509,358	△34,697
	630就労支援事業支出	31,975	31,110	865
	667支払利息支出	745	774	△29
	677その他の支出	4,281	12,931	△8,650
	事業活動支出計(2)	2,692,091	2,805,087	△112,996
	事業活動資金収支差額(3) = (1) - (2)	90,797	127,312	△36,515
	412施設整備等補助金収入	311	0	311
施設整備等による収支	422固定資産売却収入	250	250	0
	施設整備等収入計(4)	561	250	311
	690設備資金借入金元金償還支出	20,184	16,928	3,256
	692固定資産取得支出	1,610,685	225,121	1,385,564
	700固定資産除去・廃棄支出	0	53,060	△53,060
	702ファイナンス・リース債務の返済支出	11,032	7,175	3,857
	施設整備等支出計(5)	1,641,901	302,284	1,339,617
その他の活動による収支	施設整備等資金収支差額(6) = (4) - (5)	△1,641,340	△302,034	△1,339,306
	459積立資産取崩収入	1,606,174	276,740	1,329,434
	442事業区分間繰入金収入	42,360	36,190	6,170
	444拠点区分間繰入金収入	311,033	450,599	△139,566
	446サービス区分間繰入金収入	7,886	1,379	6,507
	779長期前払費用収入	621	621	0
	その他の活動収入計(7)	1,968,074	765,529	1,202,545
	774積立資産支出	70,737	79,396	△8,659
	726事業区分間繰入金支出	42,360	36,190	6,170
	728拠点区分間繰入金支出	311,033	450,599	△139,566
その他の活動による支岡	730サービス区分間繰入金支出	7,886	1,379	6,507
	762その他の活動による支出	4,647	0	4,647
	781長期前払費用支出	292	0	292
	その他の活動支出計(8)	436,955	567,564	△130,609
	その他の活動資金収支差額(9) = (7) - (8)	1,531,119	197,965	1,333,154
予備費支出(10)		43,500	43,500	0
当期資金収支差額合計(11) = (3) + (6) + (9) - (10)		△62,924	△20,257	△42,667
前期末支払資金残高(12)		632,141	596,118	36,023
当期末支払資金残高(11) + (12)		569,217	575,861	△6,644

とちぎ健康福祉協会役員等名簿

(平成31年4月1日現在)

評議員

(敬称略・順不同)

氏名	所属
田嶋 進	栃木県社会福祉協議会 会長
束原 勸	栃木県老人クラブ連合会 会長
麦倉 仁巳	栃木県身体障害者団体連絡協議会 会長
日向野文代	栃木県民生委員児童委員協議会 会長
佐護 操	栃木県手をつなぐ育成会 副会長
浜野 修	栃木県地域包括・在宅介護支援センター協議会 会長
荒川 勉	元とちぎ健康福祉協会理事長

理事

(敬称略・順不同)

氏名	所属
富田 哲夫	とちぎ健康福祉協会 理事長
島田 淳	とちぎ健康福祉協会 常務理事管理部長
今泉 信男	とちぎ健康福祉協会 常務理事事業部長
小室 隆雄	とちぎ健康福祉協会 総務課長
増渕 研一	とちぎ健康福祉協会 桜ふれあいの郷所長
植木 浩子	とちぎ健康福祉協会 宝木保育園長

野事

(敬称略・順不同)

氏名	所属
小川 昌樹	栃木県国民健康保険団体連合会 常務理事
鈴木 寛	鈴木会計事務所 税理士

令和元年度 とちぎ健康福祉協会事業計画

社会福祉事業及び県民の健康と生きがいづくりを総合的に支援するための事業を着実、効果的かつ的確に行う。また、公益性・非営利性の高い社会福祉法人として、その使命である経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の確保、財務規律の強化及び地域における公益的な活動に積極的に取り組む。

さらに、国、県及び市町の福祉施策や
を踏まえ、経営する施設の運営体制や
各種事業の実施体制を充実させ、各サー
ビスを確実に提供する。

なお、実施に当たっては、とちぎ健
康福祉協会基本計画（三期計画）を業
務運営の指針とし、基本理念とする
「利用者」一人ひとりが、その人らしく、
地域社会において健やかに育ち、心豊
かに暮らすことを支援する「健康経
営」みんなの力であふれる笑顔」
のもと、次の基本方針に基づき、事業
を展開する。

① 質の高いサービスの提供
② 自主自立経営の確立
③ 地域社会への貢献

平成30年度苦情解決の状況

1 苦情申し出の状況

苦情受付件数	清風園					合計
	本人	家族等	第三者委員会	運営適正化委員会	その他	
サービスの内容に関すること	言葉遣い・態度					0
	支援・介護技術					0
	虐待・体罰					0
	その他の					0
個人の嗜好・選択に関すること	設備・備品					0
	食事					0
	趣味・娯楽					0
	その他の					0
財産管理に関すること	金銭管理					0
	私物管理					0
制度、施策、法律に関すること						0
その他の						0
小計					1	1
合計						1

2 苦情解決の状況

苦情解決方法	清風園				合計
	苦情解決責任者が解決	第三者委員会を交渉	運営適正化委員会	その他	
サービスの内容に関すること	言葉遣い・態度				0
	支援・介護技術				0
	虐待・体罰				0
	その他の				0
個人の嗜好・選択に関すること	設備・備品				0
	食事				0
	趣味・娯楽				0
	その他の				0
財産管理に関すること	金銭管理				0
	私物管理				0
制度、施策、法律に関すること					
その他の					
小計					1
合計					

3 第三者委員との連携について

(1) 第三者委員との連絡会議実施状況

第三者委員と施設の連絡会議等	実施している	定期	連絡会議を合同で年1回開催	連絡会議を合同で年1回開催	
				虐待防止委員会(年2回)	権利擁護委員会(年2回)
		随時			
第三者委員と利用者の連絡会議	実施していない	定期			
		随時			

(2) 第三者委員への苦情報告状況

実施している	報告内容	定期	連絡会議と同時		○
			連絡会議と同時	連絡会議と同時	
		随時			
実施していない	報告内容	定期			○
		随時			○
					○

苦情解決について

当協会が設置運営する児童福祉施設及び障害者支援施設における平成三十年度の苦情受付とその解決状況は左表のとおりでした。（わかくさ、宝木保育園、桜ふれあいの郷において苦情の申出はありませんでした。）

今後とも、提供するサービスの質の向上を図り、利用者の満足度とサービス提供者としての信頼を高めるよう努めて参ります。

検証年次	令和3年4月～	実施年次	令和2年4月～	業務の見直しを反映した勤務時間等の設定	平成31年4月～	平成31年4月～	年次有給休暇の取得計画を策定	会議や研修による所属長、事務担当者への説明	制度に関する資料の作成、職員への周知	女性職員の取得率はほぼ100%であるが、男性職員の取得は、これまでのところ3名にとどまっている。	そのため、制度についてあらためて周知し、その取得を促進する。	対策	
令和3年4月～	令和2年4月～	令和2年3月～	令和2年3月～	各事業所ごとに業務の見直し	年次有給休暇の取得計画を策定	年次有給休暇の取得計画を策定	年次有給休暇の取得計画を策定	年次有給休暇の取得計画を策定	年次有給休暇の取得計画を策定	年次有給休暇の取得計画を策定	年次有給休暇の取得計画を策定	年次有給休暇の取得計画を策定	年次有給休暇の取得計画を策定

1 計画期間	2 内容	目標1 育児休業制度については定着しており、女性職員の取得率はほぼ100%であるが、男性職員の取得は、これまでのところ3名にとどまっている。	
		令和3年4月1日から令和4年3月31日までの3年間	環境の整備を行うため、次のように行動計画を策定する。
平成31年4月～	令和元年6月～	育児休業、子の看護休暇等の取得状況の把握	女性職員の取得率はほぼ100%であるが、男性職員の取得は、これまでのところ3名にとどまっている。
平成31年4月～	令和元年6月～	会議や研修による所属長、事務担当者への説明	そのため、制度についてあらためて周知し、その取得を促進する。
平成31年4月～	令和元年6月～	制度に関する資料の作成、職員への周知	女性職員の取得率はほぼ100%であるが、男性職員の取得は、これまでのところ3名にとどまっている。
平成31年4月～	令和元年6月～	女性職員の取得率はほぼ100%であるが、男性職員の取得は、これまでのところ3名にとどまっている。	そのため、制度についてあらためて周知し、その取得を促進する。

次世代育成支援対策推進法に基づく
社会福祉法人とちぎ健康福祉協会行動計画

三十六年間の歴史に幕

第94号 (8)

令和元年7月1日



かたらい

は、昭和五十八年一月二十六日にオープンし、累計五十五万五千六百七十四人の宿泊利用があり、障がい者とその家族、団体等多くの方の交流の場となりました。

その那珂川苑が平成三十一年三月十八日で三十六年間の営業が終了し、三月三十一日をもって施設が廃止となりました。

営業最後の夕食には、地元の方がボランティアでどんどんを披露してくれ、楽しいひと時を過ごしました。

また、宿泊者は、思い出の場所や職員と記念撮影をするなど、閉所を惜しむ姿が多く見られました。

チェックアウト時には、三十六年間の感謝を込めて一人ひとりにカーネーションを手渡し、職員全員で見送りました。

その後、県、町、協会で閉所式を行いました。

宿泊などで利用してくれた方、運営にご協力をいたいた方、その他たくさんの方に支えられたことに深く感謝申し上げます。

栃木県障害者保養センター那珂川苑は、昭和五十八年一月二十六日にオープンし、累計五十五万五千六百七十四人の宿泊利用があり、障がい者とその家族、団体等多くの方の交流の場となりました。

その那珂川苑が平成三十一年三月十八日で三十六年間の営業が終了し、三月三十一日をもって施設が廃止となりました。

営業最後の夕食には、地元の方がボランティアでどんどんを披露してくれ、楽しいひと時を過ごしました。

また、宿泊者は、思い出の場所や職員と記念撮影をするなど、閉所を惜しむ姿が多く見られました。

チェックアウト時には、三十六年間の感謝を込めて一人ひとりにカーネーションを手渡し、職員全員で見送りました。

その後、県、町、協会で閉所式を行いました。

宿泊などで利用してくれた方、運営にご協力をいたいた方、その他たくさんの方に支えられたことに深く感謝申し上げます。

健康の森 ワンポイントアドバイス

サイレントキラー（高血圧）

栃木県は脳卒中での死亡率が高いと以前から言われていますが、最近の傾向はどうでしょうか？

平成二十七年の統計では、男性は全国ワースト四位、女性は全国ワースト一位と依然高い状況が続いています。脳卒中の発症と高血圧は深い関係があります。血圧が急に変動し血管に大きな負担をかけることで、脳卒中を引き起こす危険性が高まります。高血圧は、「サイレントキラー」と呼ばれ、自覚症状が無いまま血管にダメージを与えることがあります。脳卒中以外にも様々な病気を引き起こします。

高血圧予防にはまず、自分の血圧傾向を知ることが大切です。どちら健康づくりセンターでは、トレーニング室やプールの利用前に必ず血圧を測定します。血圧は、体調・時間帯・気温などでも変化します。自分がどのような時に変化するか確認でき、利用者の高血圧予防につながっています。すでに血圧が高い方は、減塩や肥満解消が血圧を下げるにはとても効果的です。積極的に取り組んでみましょう。

また血圧を測定すると、「上下の差が少ない」と心配される方がいます。最高血圧と最低血圧の差を「脈圧」といいます。この差が大きいと、動脈硬化が進んでいます。脈圧が六十以上であります。このことになります。脈圧が六十以上で大きい方は注意して下さい。

桜ふれあいの郷 建替整備について

総務課

桜ふれあいの郷の建替え整備に伴つて、この春、体育館が解体されました。

三十八年もの長い間、様々な役割を果たしてきました。利用者支援はもとより各種行事やイベントの会場として、時には地域の方々の活動と交流の場として、東日本大震災の際には避難場所として役割を果たしてきました。

日中一時の放課後等支援を利用されていた児童たちの、楽しそうに体育館を駆け回る足音や声が響いていたこと、桜の花の咲き乱れる体育館までの道中を、利用者の方々と散歩したことなどとても良い思い出です。

そんな慣れ親しんできた体育館が段々と解体されていく様を見て、哀愁を感じずにはいられませんでした。その反面、新たな施設への期待感が大きくなっています。



では施設の規模が大きく工事期間も長期になります。

しかし、設計に関しては耐震性を考慮した建物とす

るとともに、各居室を個室とすることで、利用者の方がより落ち着ける環境の提供と、プライバシーに配慮し

た支援が実施できる建物となります。



「完成予想図」

また、建物を出ると各居住棟が集約されており、それぞれで生活する利用者や職員が、気軽に触れ合いやすい構造となっています。

利用者の方々の生活が考えられ、より良い支援が提供できる施設へと生まれ変わることに期待を膨らませています。

本年度は、元号が平成から令和へと変わり、新しい時代がスタートしました。当協会において今回の桜ふれあいの郷建替整備は重要な事柄として位置づけられています。

令和元年が当協会のさらなる発展に結びつくよう、今後も万全な準備に取り組んで参ります。